

平成23年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年5月13日

上場取引所 大

上場会社名 カルナバイオサイエンス株式会社
 コード番号 4572 URL <http://www.carnabio.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成23年5月13日

(氏名) 吉野公一郎
 (氏名) 相川 法男

TEL 078-302-7075

配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年12月期第1四半期の連結業績(平成23年1月1日～平成23年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年12月期第1四半期	158	△2.9	△65	—	△64	—	△80	—
22年12月期第1四半期	163	0.2	△93	—	△93	—	△95	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年12月期第1四半期	△1,374.74	—
22年12月期第1四半期	△1,628.13	—

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年12月期第1四半期	1,577	1,283	81.4	21,863.71
22年12月期	1,656	1,365	82.4	23,257.82

(参考)自己資本 23年12月期第1四半期 1,283百万円 22年12月期 1,365百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年12月期	—	—	—	—	—
23年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年12月期の連結業績予想(平成23年1月1日～平成23年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	337	4.1	△178	—	△122	—	△140	—	△2,397.88
通期	770	34.7	△254	—	△200	—	△221	—	△3,764.39

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】4ページ「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無
新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）
（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無
（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
① 会計基準等の改正に伴う変更 有
② ①以外の変更 有
（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）
① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年12月期1Q 58,710株 22年12月期 58,710株
② 期末自己株式数 23年12月期1Q 一株 22年12月期 一株
③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年12月期1Q 58,710株 22年12月期1Q 58,710株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	6
【第1四半期連結累計期間】	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) セグメント情報	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新興国における経済の好況を背景に企業収益の改善が続いているものの、雇用情勢や円高基調の為替相場並びに3月11日に発生しました東日本大震災の影響等により先行き不透明な状態で推移いたしました。当社グループが属する製薬業界におきましては、医療制度改革や大手製薬企業の主力製品の相次ぐ特許切れによる企業収益の圧迫等を背景として、研究拠点の統廃合を行うとともに創薬研究をアウトソースする傾向が強まっており、国際的な新薬開発競争は激しさを増しております。

このような外部環境の中、当社グループは、キナーゼ創薬に係る創薬基盤技術を核とした創薬支援事業並びに創薬事業を積極的に展開し、事業の拡大を図ってまいりました。

事業別で見ますと、創薬支援事業におきましては、海外市場特に米国における売上拡大に注力し、学術営業要員の配置による当社技術の積極的なアピールを展開するとともに、展示会でのポスター発表など当社からの情報発信を積極的に行ってまいりました。また、創薬事業におきましては、ガンを重点領域とした研究開発方針のもと、多種にわたるガン細胞への効果を検証し、より安全で効果の高いキナーゼ阻害薬の創出を目指して引き続き最適化研究を実施しております。さらに、当社グループのその他の研究パイプラインに関しましても、研究パートナーとのアライアンスを活用する等、研究開発リソースを効率的に活用し研究を推進してまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は158百万円（前年同四半期比2.9%減）、営業損失は65百万円（前年同四半期は93百万円の損失）、経常損失64百万円（前年同四半期は93百万円の損失）、四半期純損失80百万円（前年同四半期は95百万円の損失）となりました。

セグメント別の業績は次の通りです。

①創薬支援事業

キナーゼタンパク質の販売、アッセイ開発、プロファイリング・スクリーニングサービスの提供等により、創薬支援事業の売上高は151百万円（前年同四半期比3.4%減）、営業利益は38百万円（前年同四半期比78.0%増）となりました。売上高の内訳は、キナーゼタンパク質の販売69百万円（前年同四半期比13.9%増）、アッセイ開発11百万円（前年同四半期比26.7%減）、プロファイリング・スクリーニングサービス68百万円（前年同四半期比15.7%増）、その他は1百万円（前年同四半期比92.4%減）であります。その他の売上の大幅な減少は、前年同四半期に計上があったリード探索サービスの売上が、協業先であったOSI Pharmaceuticals, Inc. が買収されたことに伴い減少したことによるものであります。

②創薬事業

当第1四半期連結累計期間の創薬事業の売上高は7百万円（前年同四半期比8.1%増）、営業損失は103百万円（前年同四半期は114百万円の損失）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期末における総資産は1,577百万円（前連結会計年度末比78百万円減）、負債は294百万円（前連結会計年度末比3百万円増）、純資産は1,283百万円（前連結会計年度末比81百

万円減)となり、自己資本比率は81.4%(前連結会計年度末82.4%)となりました。

②キャッシュ・フローの状況に関する分析

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、営業活動により99百万円減少し、投資活動により1百万円減少し、財務活動により14百万円減少した結果、当第1四半期連結会計期間末においては1,058百万円(前連結会計年度末比115百万円減)となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により減少した資金は99百万円(前年同四半期は121百万円の減少)となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失75百万円の計上、売上債権の増加30百万円、未払金の減少9百万円、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額10百万円及び減価償却費9百万円の計上等の差し引きによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により減少した資金は1百万円(前年同四半期は13百万円の減少)となりました。これは有形固定資産の取得による支出1百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により減少した資金は14百万円(前年同四半期は48百万円の増加)となりました。これは長期借入金の返済による支出14百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年2月10日に公表いたしました平成23年12月期の業績予想に変更はございません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関しては、該当事項はありません。

記載すべき重要な簡便な会計処理の適用についても、該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

①「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当第1四半期連結累計期間の営業損失及び経常損失はそれぞれ352千円増加し、税金等調整前四半期純損失は10,595千円増加しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は22,808千円であります。

②表示方法の変更

（四半期連結損益計算書関係）

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日内閣府令第5号）の適用により、当第1四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純損失（△）」の科目を表示しております。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、継続して営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況（重要事象等）が存在しております。

当該重要事象等を解消するために、当社グループは、創薬支援事業においては更に拡販に努めることで売上の上積みを図るとともに、創薬事業においては研究開発をさらに推し進め、新薬候補化合物を製薬企業に導出することで契約一時金等の収入を獲得してまいります。さらに、研究の効率化や諸経費の節減等により販売費及び一般管理費の圧縮に継続的に取り組むことで、早期の全社業績の黒字化を達成し、当該重要事象等が解消されるよう取り組んでまいります。

なお、当社グループは事業活動を継続するための十分な手元資金を保有しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成23年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	928,041	943,176
売掛金	85,569	54,908
有価証券	200,000	300,000
商品及び製品	104,588	102,926
仕掛品	7,152	8,247
原材料及び貯蔵品	6,595	8,826
その他	44,012	38,384
貸倒引当金	△22	△16
流動資産合計	1,375,937	1,456,453
固定資産		
有形固定資産	72,689	66,775
無形固定資産	18,577	20,253
投資その他の資産	110,427	112,713
固定資産合計	201,694	199,743
資産合計	1,577,631	1,656,196
負債の部		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	57,792	57,792
未払金	24,213	33,806
未払法人税等	1,921	5,357
その他	67,535	64,705
流動負債合計	151,463	161,661
固定負債		
長期借入金	114,620	129,068
繰延税金負債	5,008	—
資産除去債務	22,921	—
固定負債合計	142,550	129,068
負債合計	294,013	290,729
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,125,632	2,125,632
資本剰余金	673,100	673,100
利益剰余金	△1,476,085	△1,395,374
株主資本合計	1,322,646	1,403,357
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△31,840	△30,277
為替換算調整勘定	△7,188	△7,613
評価・換算差額等合計	△39,028	△37,890
純資産合計	1,283,618	1,365,466
負債純資産合計	1,577,631	1,656,196

(2) 四半期連結損益計算書

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)
売上高	163,004	158,225
売上原価	62,183	43,214
売上総利益	100,821	115,011
販売費及び一般管理費	194,151	180,433
営業損失(△)	△93,330	△65,422
営業外収益		
受取利息	254	158
助成金収入	—	800
為替差益	—	560
その他	67	166
営業外収益合計	321	1,686
営業外費用		
支払利息	293	792
為替差損	188	—
その他	76	76
営業外費用合計	558	869
経常損失(△)	△93,567	△64,605
特別損失		
減損損失	1,434	268
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	10,243
特別損失合計	1,434	10,511
税金等調整前四半期純損失(△)	△95,001	△75,116
法人税、住民税及び事業税	586	586
法人税等調整額	—	5,008
法人税等合計	586	5,594
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△80,711
四半期純損失(△)	△95,587	△80,711

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△95,001	△75,116
減価償却費	14,671	9,018
減損損失	1,434	268
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△3	5
受取利息	△254	△158
支払利息	293	792
助成金収入	—	△800
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	10,243
売上債権の増減額(△は増加)	18,269	△30,257
たな卸資産の増減額(△は増加)	△3,561	1,804
仕入債務の増減額(△は減少)	150	—
未払金の増減額(△は減少)	△42,745	△9,477
その他	△12,591	△3,665
小計	△119,339	△97,344
利息の受取額	298	193
利息の支払額	△436	△763
助成金の受取額	—	800
法人税等の支払額	△2,405	△2,382
営業活動によるキャッシュ・フロー	△121,883	△99,496
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,610	△1,099
投資有価証券の取得による支出	△9,995	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,605	△1,099
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	100,000	—
長期借入金の返済による支出	△1,998	△14,448
担保に供した預金の増減額(△は増加)	△50,000	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	48,002	△14,448
現金及び現金同等物に係る換算差額	224	△89
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△87,262	△115,134
現金及び現金同等物の期首残高	1,490,716	1,173,176
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,403,453	1,058,041

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)

	創薬支援事業 (千円)	創薬事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結(千円)
売上高					
外部顧客に対する売上高	156,344	6,660	163,004	—	163,004
計	156,344	6,660	163,004	—	163,004
営業利益又は営業損失(△)	21,498	△114,829	△93,330	—	△93,330

(注) 1. 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各区分の主な製品又は事業の内容

- (1) 創薬支援事業…キナーゼタンパク質の販売、アッセイ開発
プロファイリング・スクリーニングサービス
- (2) 創薬事業……キナーゼ阻害薬研究

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)

	日本(千円)	北米(千円)	計(千円)	消去又は 全社(千円)	連結(千円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	126,245	36,758	163,004	—	163,004
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	23,156	—	23,156	(23,156)	—
計	149,401	36,758	186,160	(23,156)	163,004
営業損失(△)	△92,581	△491	△93,072	(257)	△93,330

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域の内訳は次のとおりであります。

北米…米国

【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年3月31日)

	北米	欧州	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	36,758	8,099	3,273	48,131
II 連結売上高(千円)	—	—	—	163,004
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	22.5	5.0	2.0	29.5

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域の内訳は次のとおりであります。
- (1) 北米…米国、カナダ
 - (2) 欧州…デンマーク、ベルギー、英国、スペイン
3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

【セグメント情報】

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社では、創薬基盤技術をベースに「創薬支援事業」及び「創薬事業」を展開しており、この2つの事業を報告セグメントとしております。

「創薬支援事業」では、キナーゼタンパク質の販売、アッセイ開発、プロファイリング・スクリーニングサービス等を行っております。「創薬事業」では、キナーゼ阻害薬の研究開発を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間(自 平成23年1月1日 至 平成23年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント		
	創薬支援事業	創薬事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	151,025	7,200	158,225
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	151,025	7,200	158,225
セグメント利益又は損失(△)	38,265	△103,687	△65,422

(注) セグメント利益又は損失の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しており差額はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結累計期間において、重要な事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。